

【中学校進学に向けて】

明日は桐光学園中学校の入学試験です。小学校開校時から入学した子どもたちを6年後に中学校に送り出すためにどのようにしたらよいかを、小学校だけの問題としてでなく、学園の一つの大きな課題として検討を重ねてきました。1期生が卒業するころの進学の条件と現在のものは多少異なりますが、日常の小学校での生活（学習、生活両面で）をきちんと送っている児童は中学校に進学できるという基本方針は変わっていません。現在皆様にお伝えしております進学の条件は、年4回（低学年は年2回）の定期試験で60点以上の点数をとること（判定は高学年の定期試験の結果で）、課題にしっかりと取り組むこと、授業に臨む態度（学習に取り組む姿勢）に問題がないこと、生活面での問題がないこと（自分勝手な言動ばかりが目立つことや暴力的な言動がないこと）であることを保護者の皆さんにもお伝えしています。これについてはどなたにも当然のこととお考えいただけることと思いますし、これを満たすことができないとすると、中学校でも、子ども自身が楽しく生活できないばかりでなく、自信が持てない日々を送ることになってしまうことが考えられるからです。

最も気になるのは、定期試験の点数でしょうか？ 現在行われている定期試験においてこの条件をクリアできないとすると教科書レベルの学習内容が理解できていないということになりますので、その心配はほとんどないと言っていいでしょう。私が最近気になるのは、点数以外の条件の部分です。残念なことですが、課題への取り組みの不十分さ、そして落ち着きのない行動が見られることがあります。

学校には、いろいろな個性を持った子どもたちが集まってきますから、学校で生活する全ての人が、自分を含めた一人ひとりの凸凹を認めて、しっかりと向き合っ、学び合っ成長していくことができる環境を作ることが大切です。またそれができるのが学校のよいところでもあります。ここで、一人ひとりの子どもたちの頑張りが必要であることは言うまでもありませんが、学校として様々な角度から子どもたちを支援していくこと、保護者の皆様、自分のお子さんだけでなく、多くの子どもたちの今を受け入れていただき、それぞれの成長のためにお力をお貸しいただくことが必要です。

また、少し意識が変わってきているのではないかと感じるのが「土曜講習」のことです。これは4年生以上の活動ですが、この土曜講習を“おまけの活動”のように思っている児童（もしかして保護者も？）がいるように感じる場合があります。桐光学園小学校の学習の3本柱をご存じでしょうか。それは「授業・家庭学習・土曜講習」です。改めて申し上げるまでもないことですが、授業はその学年の学習内容を身に着けるものとして最も大事にしているものです。家庭学習は学習内容の定着と学習の習慣を身に着けることを目的としています。そして、土曜講習は、チャレンジの活動といってもいいでしょう。チャレンジは“おまけの活動”ではなく、一人ひとりがさらに力をつけるために取り組むものであると考えています。

開校してから23年を終えようとしている今、この3月に高等学校を卒業しようとしている生徒（12期生）たちは、昨年に続き、素晴らしい大学進学の結果を出してくれることと期待しています。在校生がこれまでの卒業生が築きあげてきた桐光学園小学校のよさをさらに発展させることを願います。また、この小学校がこれからも、よい学びの場であるためには、児童、保護者、そして教員がこの小学校を「努力しなくても中学校に行ける学校」と考えるのではなく、「努力はするが、無理なことをしなくても中学校に行ける学校」「自分の好きなこと、得意なことを作りながら生活できる学校」と考えていただかないといけないことを申し上げます。

【主体的・対話的・深い学びとは】

教育現場に求められることはその時代背景によって様々です。10年ごとに学習指導要領が改訂され、教育現場には様々な変革が求められます。ゆとり教育と言われた時代には「学習内容の削減」があり、「総合的な学習」が改訂の目玉とされたこともありました。30年ほど前には、全ての学校にコンピューターを設置して新たな教育の展開を始める動きもありました。その後、学習内容をもとに戻そうとする流れがありましたが、同時に英語、道徳などの教科化などがあり、学校はますます子どもたちにとって忙しいところになります。2020年の改訂で何より注目されるのは「主体的・対話的・深い学び」（アクティブラーニング）と言われているものではないでしょうか。しかし、これまで私たちが授業の中で心掛けてきたもの、理想としてきたものがまさにその考え方に基づいた授業だったことは言うまでもないことです。今後の教育活動においては、そのような観点からさらに子どもたちが自ら考え、その考えをクラスで共有できるようにしていくことを大切にしていかなければならないでしょう。3つ目の「深い学び」ということについては、自分自身の学びと様々な発信されている情報とを結びつけることによって、自分の考えをよりよいものにしていくことが求められます。このような学習を進めるために、様々な機器を使うことが有効であるという声があるのも確かですが、果たしてどうなのでしょう。日々の学びの活動が子どもたちの心に残り、そして仲間と共有できることで自分の考えを深めていくこと、今はこのことを大切にしながら子どもたちに向き合っていきたいと思えます。